

# 論壇

## 環境や格差問題で17目標

環境問題や格差の問題に企業が取り組む姿勢が問われている。その代表的な存在が持続可能な開発目標(SDGs=Sustainable Development Goals)と呼ばれるものだ。SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、30年までの国際目標だ。

少し長くなるが、SDGsが掲げた17の目標を列挙しよう。①貧困をなくす②飢餓をゼロに③全ての人に健康と福祉を④質の高い教育を全てに⑤エンター平等の実現⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてク

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

リーに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくる⑩人や国の不平等をなくす⑪住み続けられるまちづくり⑫つくる責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正を全ての人に⑰パートナーシップで目標を達成しようである。

## SDGsへの企業の取り組み

経団連がこの目標を重視していることもあり、多くの企業がSDGsに積極的に取り組み始めている。17色の色が入っているSDGsバッジをしている人を見たことがある人も多いだろう。企業が環境や格差の問題に関心をもち、それは企業業績との関係はない。しよせんは

場働いている人は、金もつけや競争のためだけに行動しているのではない。自分のやっていることが社会に貢献できるといふことが日々の心の支えになっているのだ。

### 積極姿勢が成長の原動力

そういえば、シリコンバレーなどで大成するベンチャーの経営者の話を聞いても、お金をもうけたいという気持ちだけで企業を起こして努力してきたわけではないという。それよりも、「世界の食料問題を解決したい」「医療の進歩に貢献したい」、あるいは「途上国の貧困を撲滅したい」といった、大きな目標を達成したいという気持ちが企業の成長の原動力となっている、と話をする経営者が多い。

米国のハードボイルドの小説家のアルフレッド・チャンドラーの作品の中に出てくる有名なセリフを「存じな方も多いだろう。」「夕方でなければ生きて行けない。優しくなければ生きていく資格がない」。これは小説の中の探偵の話だが、現代の企業にも見事に当てはまる。企業は競争力がなければ生きていくことはできないが、それだけでは十分ではない。社会や人に優しくない企業は存続する意義がないのだ。地球環境を汚染したり、従業員を搾取しブラック企業と呼ばれたりする企業は、一時的な利益は挙げられても存続するのは難しい。SDGsのような重要な社会的課題に企業がより積極的に取り組むことが、企業の持続的な成長につながるはずだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。